

「令和4年度(2022年度)卒業生アンケート」
大学教育への満足度及び学習状況に関する項目の分析

筑波学院大学 IR 担当

調査の概要

筑波学院大学では、昨年度の卒業生を対象に「令和4年度卒業生アンケート」を実施している。調査項目は学生生活や経済支援に関する項目まで多岐にわたるが、本稿では卒業生の大学教育への満足度および4年間の学修状況に関する自己評価を分析し、これからの教育の改善に活用するものである。

実施時期：2023年2月24日(金)～2023年3月13日(月)(*最終日は卒業式)

調査対象：2022年度経営情報学部卒業生

調査方法：学籍番号、氏名を記入するアンケート方式(Web, 用紙)で実施

*)学籍番号、氏名は提出状況管理のためのみに使用。

調査目的（アンケート教示文より）：

この調査は、本学がより良い教育の実現を目指すために行うものです。ご協力をお願いします。

該当する項目に○をつけてください。

なお、この調査は無記名で提出してください。本調査以外の目的で使用することはありません。

例年実施しております、「卒業アンケート」を Google Forms を使用して実施します。本アンケート結果は、次年度以降の改善に必要なアンケートで、卒業生の皆さまからの率直な意見を聞きたいと考えております。本アンケート未回答者は、卒業式当日に紙での回答をお願いすることになります。そのため、事前の回答いただければと思います。よろしくお願いいたします。

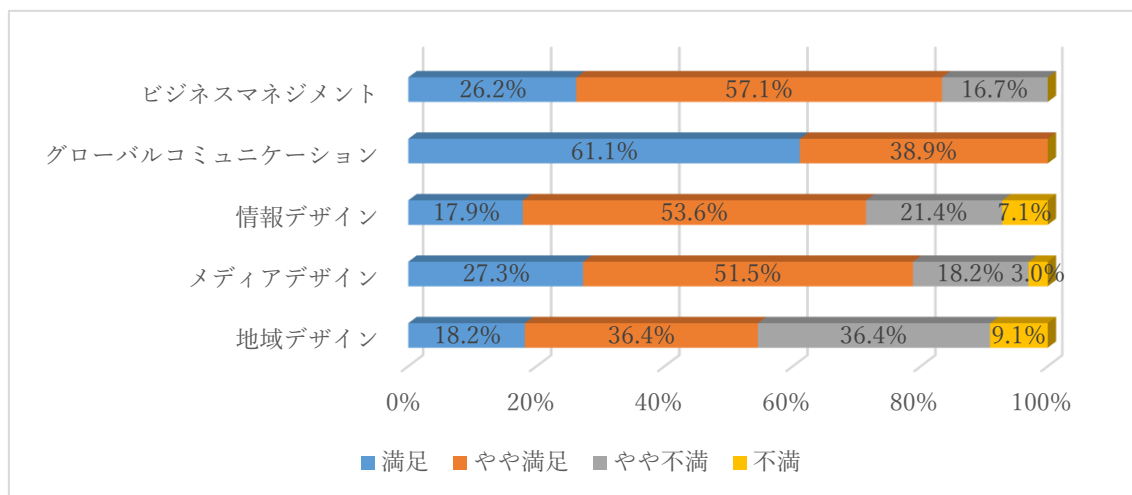
回答者数

| 専攻したコース | 回答者数 |
|---------------------|------|
| ビジネスマネジメント (BM) | 11 |
| グローバルコミュニケーション (GC) | 33 |
| 情報デザイン (ID) | 28 |
| メディアデザイン (MD) | 18 |
| 地域デザイン(CD) | 42 |
| 計 | 132 |

調査結果「大学教育への満足度」より

1. 授業全体に対する満足度

図1. 授業全体の内容に対するコース別満足度の割合



「授業全体をふりかえって満足でしたか。」という質問に対し、4段階による回答を求めた。昨年度と比較して、BM、GC、ID、MDのコースで、満足・やや満足の割合が上昇する結果となっており、全体で75%以上となった。CDは今年が初めての卒業生となるが、アンケートの回答ではやや不満・不満の割合は45%程度となっており、今後、授業全体についてさるなる検討が必要であると考えられる。

2. 講義内容に対する満足度

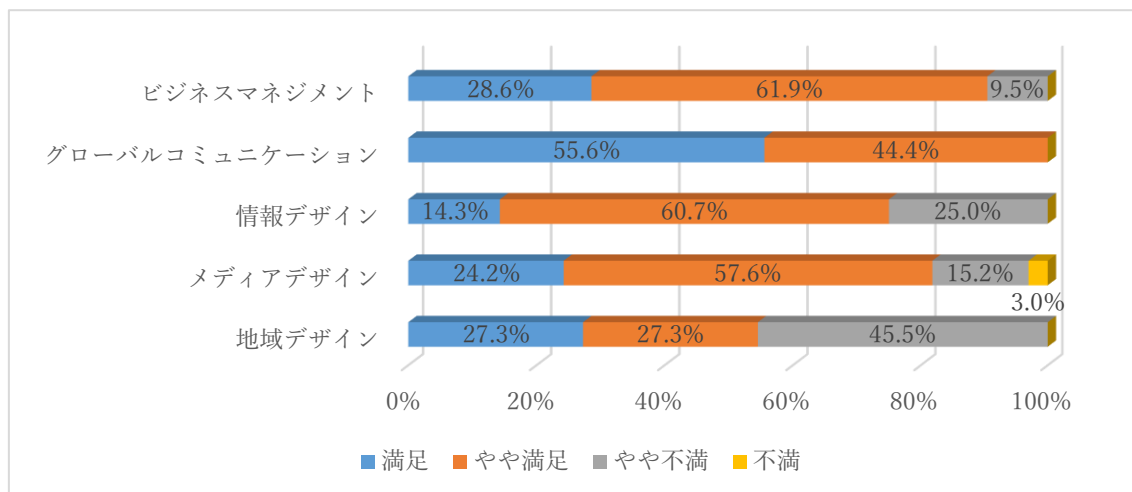


図2. 講義内容に対するコース別満足度の割合

「講義内容について満足でしたか。」という質問に対し、4段階による回答を求めた。満足・やや満足の割合は、「1. 授業全体の満足度」の回答結果とよく似た割合を示しており、昨年

度と比較しても満足・やや満足の回答割合が上昇している。一方、CD の回答結果について、満足・やや満足の割合は「1. 授業全体の満足度」と同程度であるが、満足の割合が「1. 授業全体の満足度」と比べ大きく上昇しており、講義の内容については満足していることが伺える。

3. 実習・演習科目の授業内容に対する満足度

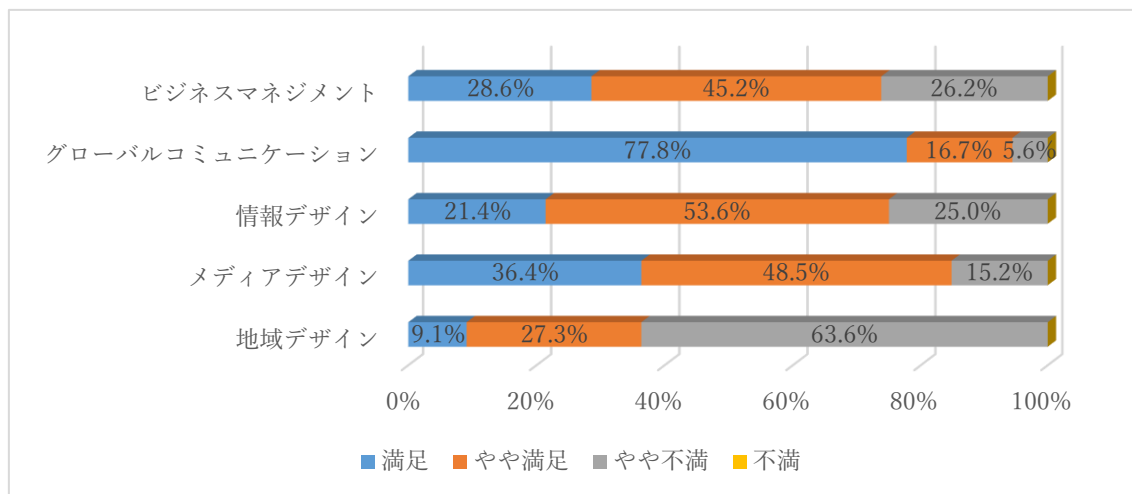


図3. 実習・演習科目などの授業内容に対するコース別満足度の割合

「実習・演習科目の授業内容について満足でしたか。」という質問に対し、4段階による回答を求めた。満足・やや満足と答えた人の割合は、前述の2つの質問に比べて低くなっている。IDについては昨年度からの改善がみられるが（昨年度、満足、やや満足と答えた学生の割合：55.5%）、他コースについては同程度又は満足度が低下している。CDについてはやや不満が63%と否定的な評価が多数を占めた。本校では、演習形式の講義が多数開講されているため、引き続き学生のニーズに合った講義方法を模索する必要がある。

4. 卒業研究に対する満足度

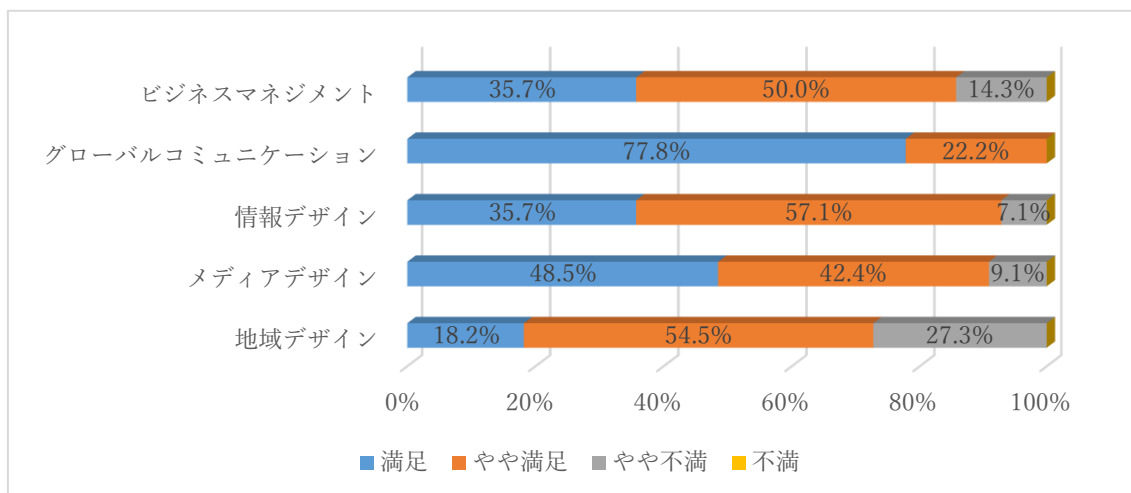


図 4.卒業研究に対するコース別満足度の割合

「講義内容について満足でしたか。」という質問に対し、4段階による回答を求めた。どのコースでも高い満足度を示す結果となっており、昨年度と比較しても同等又はそれ以上の満足度を示している。今回アンケートした中でも一番高い満足度比率となった質問であり、卒業研究の内容に関して十分であると考えている学生が多いことがうかがえる。

5. 学生生活に関するサービス全般に対する満足度

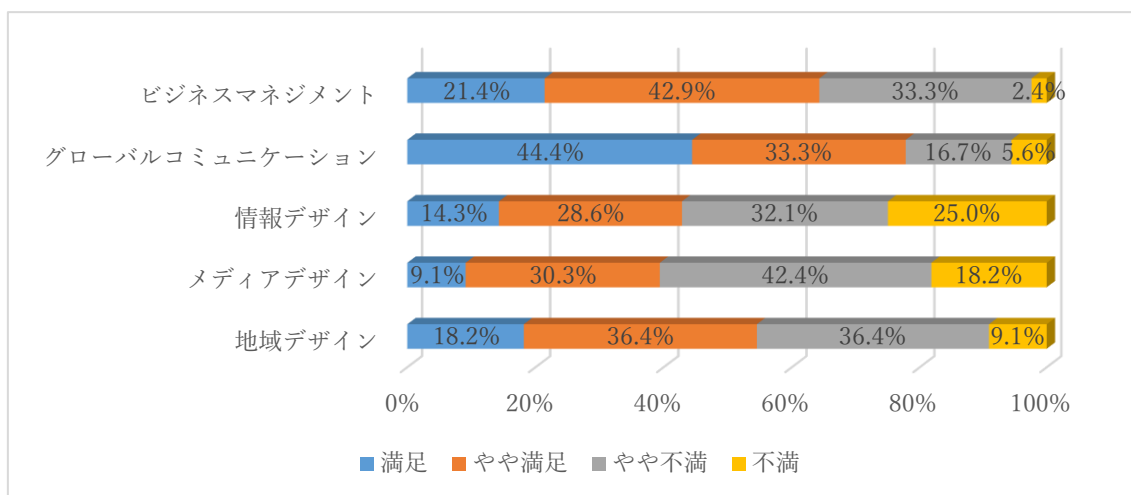


図 5. 学生生活に関するサービス全般に対するコース別満足度の割合

「学生生活に関するサービス全般について満足でしたか。」という質問に対し、4段階による回答を求めた。学生生活全般についてのサービスとなるため、昨年度と同様、コースによる回答傾向の相違については検討せず、卒業生全体の回答実数を確認した。満足、やや満足と答えた学生数は 72 名に対し、不満・やや不満と答えた学生数は 60 名であった。満足、やや満足と答えた学生の割合は 54.5%であり、昨年度と比較すると回答割合は若干上昇し

たが（昨年度：52.3%）、授業に関するアンケート結果と比較すると低い値となっている。調査対象となった学年は、2年次にコロナ禍によるオンライン授業の実施や対面形式での活動の禁止、自粛がなされた学年である。学生活動の中心になれる時期に対面形式のイベント等が実施できなかったこと等による満足度の低さが示された可能性も考えられる。

6. 学習支援に関するサービス全般に対する満足度

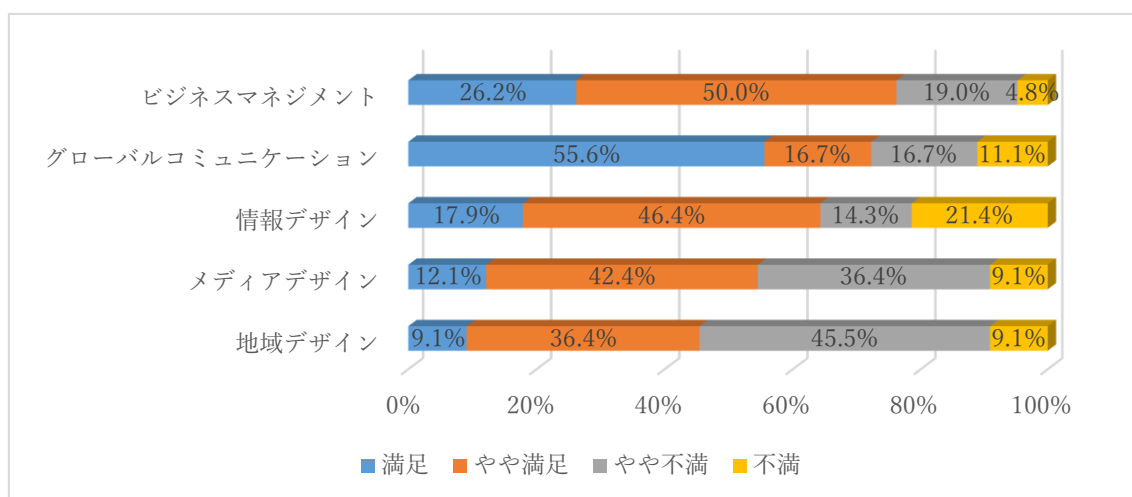


図 6. 学習支援に関するサービス全般に対するコース別満足度の割合

「学習支援に関するサービスについて満足でしたか。」という質問に対し、4段階による回答を求めた。2021年度のデータと比較すると、満足、やや満足と回答した学生の割合が増加した（2022年度：65.2%、2021年度：58.9%）。昨年度と比較すると満足度は向上しているが、卒業研究の満足度等と比較すると割合が低いことは明白であり、引き続き改善に取り組むべき点であると示唆される。

7. 教員及び事務職員の就職支援への対応・指導に対する満足度

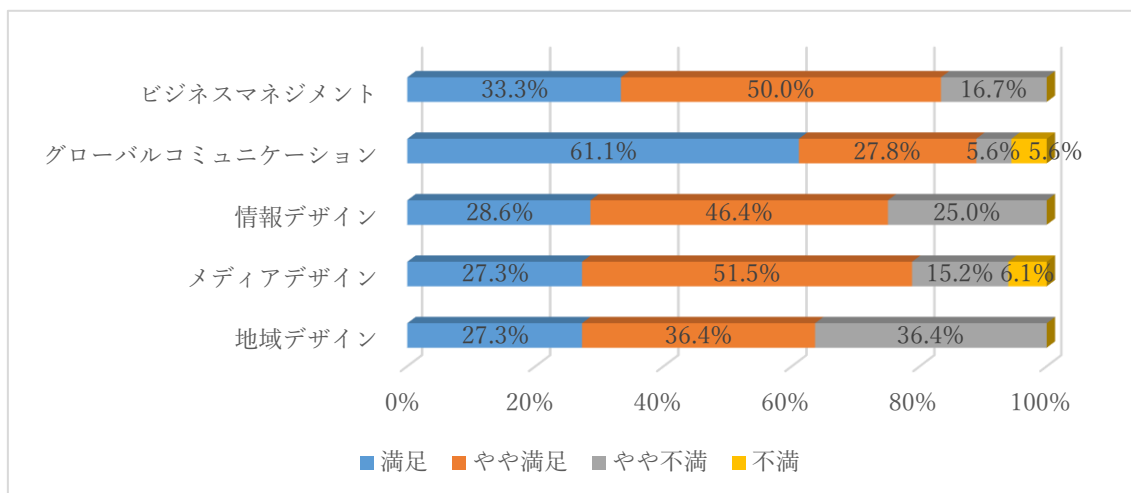


図7. 教員及び事務職員の就職支援への対応・指導に対するコース別満足度の割合

「教員および事務職員の就職支援への対応・指導について満足でしたか。」という質問に対し、4段階による回答を求めた。昨年度と比較すると、BM、GC、ID、MD いずれのコースでも満足、やや満足の比率が増加しており、全体としての比率も改善が見られた。対象学年は、3年次にキャリアセンターが新設された学年である。カリキュラム等に関して前学年からの変更がないため、キャリアセンターの活動が回答割合に影響を及ぼしたと考えられる。

結果調査「学習状況への自己評価」より

社会ニーズに応える成長に効果のあった項目の回答結果

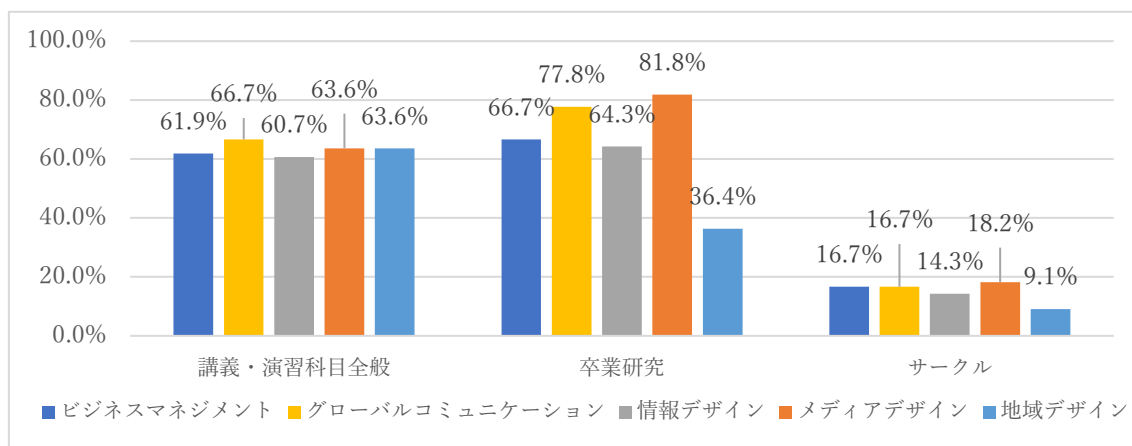


図 8. 社会ニーズに応える成長に効果のあった事項に対するコース別選択率

図 8 は「入学から卒業までの社会ニーズに応える自分の成長について、効果があったと考えられるものすべてを選んでください。」という質問に対し、選択された項目の各コース内での回答割合を示したものである。

「講義・演習科目全般」の選択肢について、昨年度と比較すると、BM の回答比率がそれぞれ 10%程度上昇していた（昨年度 BM:48.3%、GC:58.3）。調査対象となった学年は、専門科目が開始する 2 年次になったタイミングで、BM と GC に常勤講師が多数配置された学年である。専門科目の充実が、回答割合の向上につながったと考えられる。

「卒業研究」を回答した学生の割合は昨年度より向上しており（昨年度 60.4%、今年度 68.9%）、前コースでの回答割合の向上が見られた。昨年度に引き続き高い回答割合であり、問題なく卒業研究指導を行えた結果であると伺える。一方、CD は他のコースと比べると回答割合が低い結果となった。CD は初めての卒業研究指導であり、今後の改善の余地がある。

「サークル」を選択した学生は、他の 2 項目に比べて非常に低い回答割合となった。対象学年は、活動のメインとなる 2 年次から、コロナ禍でほとんどサークル活動が出来なかった学年であるため、このような結果となったと伺える。

2. 自分が成長したと思える点についての回答結果

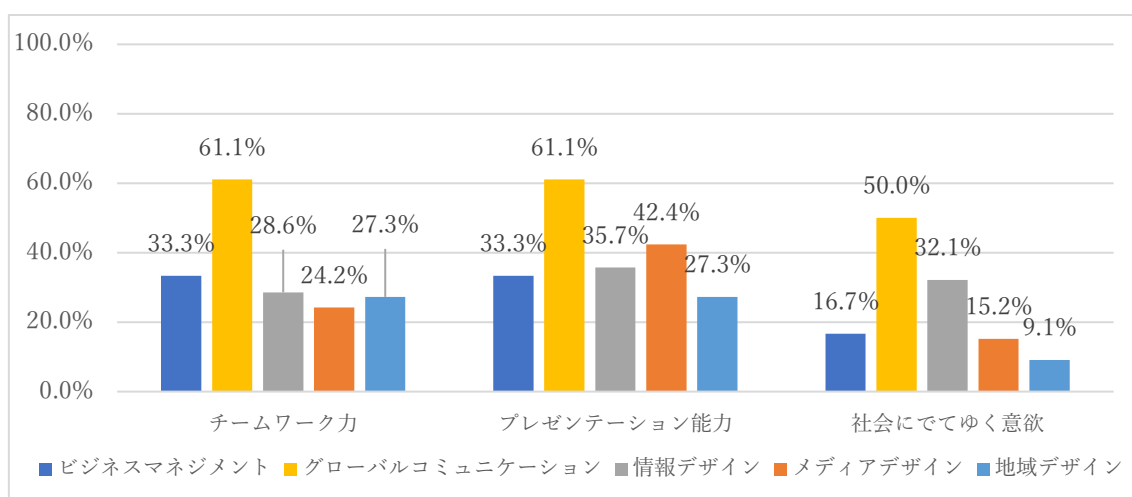
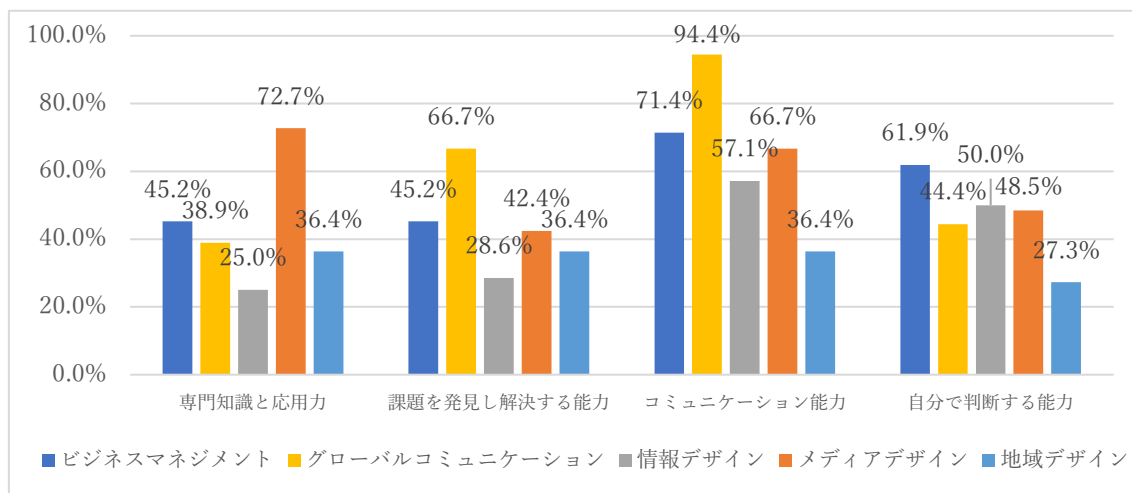


図9. 自身の成長した事項に対するコース別選択率

図9は「学生生活をふりかえり、自分が成長したと思える点はどれか、すべて選んでください。」という質問に対し、選択された項目の各コース内での回答割合を示したものである。

前年度のアンケート結果と比較すると、「コミュニケーション能力」「チームワーク力」「プレゼンテーション能力」の項目で、回答割合の向上が見られた。本学では多くの授業でアクティブラーニング型の講義を展開しており、その成果が表れた結果となったと推察される。

また、「社会にでてゆく意欲」の項目では、昨年度13.2%であったが、今年度は23.5%と向上した。今回アンケート対象の学年は、3年次にキャリアセンターセンターが新設された学年であり、キャリアセンターによる学生への就職活動支援が、本項目の回答割合上昇につながったと考えられる。

総括

本校では、卒業生の大学教育への満足度及び4年間の学修状況に関する自己評価を分析した。5コースを専攻した卒業生の満足度や自己評価を相対的に分析したが、前年度同様、教育への満足度や自己成長がそのままコース科目直結していると判断するのは避けるべきである。

調査結果「大学教育への満足度」の授業関連のアンケートでは、地域デザインコースの満足度が他の4コースと比較すると低い結果となっていることが読み取れる。地域デザインコースは調査対象学年が入学時に新設されたコースであり、今後、授業内容等について改良に努めていく必要が伺える。一方、学生生活及び学修支援に関するアンケート結果では、授業関連アンケート結果に比べて満足度が低いという結果となっている。この傾向は昨年度から継続しており、学生のニーズに沿った学生生活支援体制の構築が求められていることが推察される。

結果調査「学習状況への自己評価」のアンケート結果では、各項目の回答割合の増減はあったものの、全体の回答率としては2020年度と同程度であった（一人あたりいくつの項目を選んだか：2021年度 2.82、2022年度 2.88）。2020年度の結果では2.03となっており、昨年度に引き続き、コロナ禍によるオンライン形式の講義のネガティブな印象を払拭できなかった結果であることが示唆される。

2023年5月、コロナウイルスの分類が5類へと移行され、感染症対策の内容も変わりつつある中、その時代に相応する教学体制の整備に引き続き務めるべきであろう。